

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスきらら佃キッズ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年2月23日		令和8年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和8年2月23日		令和8年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・長期休みや祝日等に利用児童の希望に沿って様々な行事や外出活動などを行っている。	・利用児童からの希望の聞き取りを行い、希望に沿った活動を提供することが出来るように行事の企画を行っている。	・行事開催にあたっては職員間でのリスクに対する話し合い等もしっかりと行ってから開催している。
2	・職員研修や会議を定期的で開催し、児童の発達理解や職員の意識の統一を図り、一人ひとりの児童に対して統一された支援を行っている。	・児童の不穏な状態やトラブル等が見られた際には早急にミーティングや会議を開催し、事案に対して対応策を話し合う事で、事業所内で統一された支援につながるようにしている。	・事業所内だけでなく、利用児童の通っている学校や児童会等とも連携しながら統一された支援を行いたい。
3	・高齢者施設と併設されている施設のため、高齢者との交流をすることが出来る。	・廊下ですれ違う際に挨拶をしたり、廊下を歩く際は高齢者の方を優先することなど、お年寄りを敬う心を大切にしている。	・併設されている事業所の高齢者だけでなく、近隣の同グループに属する他の高齢者施設の利用者との交流も検討したい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・療育室が基準の広さを満たしているものの狭いため、子供たちが希望する活動を提供できない場合がある。	・療育室だけでなく静養室等も活用しながら個別の対応や静かに宿題等に取り組む環境を設定しているが、部屋数も多くないため対応が難しい場合がある。	・療育室の広さや部屋数には限界があるため現在本部と話し合いのうえ移転を検討中である。
2	・同グループ内の他事業所と比べると降所時間が早いため、活動に充てることのできる時間が短いことが多い。	・児童発達支援の対応のため他事業所に比べて営業時間が30分前倒しされており、利用児童が基本的に17:00に降所するため。	・児童発達支援の児童が放課後等デイサービスに移行した際には営業時間を他事業所に合わせ、降所時間を調整することを検討したい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスきらら佃キッズ（放課後等デイサービス）
------	-------------------------------

公表日 令和8年 3月 31日

利用児童数 21名

回収数 19名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	8			・狭いと感じることがある。 ・不満はないが、もう少し広げればなど 思う時がある。	・現在きらら佃キッズは移転を検討中
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1		1	・適切だと思う	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	1				
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1		1	・本人のタイミングをよく見てくださっていると感じている。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19				・食育や音楽療法の取り入れに大変感銘を受けている。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18			1		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18			1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18			1	・色々考えられていると思う。 ・普段の活動や行事、レクなどで色々な体験が出来、有難く思っている。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	5		5		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	1				
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	2		5		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	18			1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18			1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	2		7	・今後も参観行事をぜひ開催してほしい。	
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16			3		
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17			2		

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			・きちんと定期的に避難訓練が実施されている。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	1			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	1		・祝日や長期休み、食育イベントを楽しみにしている。 ・いつも楽しみに登所していて、いろいろな出来事を教えてくれている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	19			・普段の活動や支援、行事、送迎などとても感謝している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスきらら佃キッズ (放課後等デイサービス)				公表日	令和8年 3月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		主に2ヶ所の部屋で個別の対応をしています (必要に応じて音・距離感・情緒に配慮)	・利用児童の利用数によっては手狭に感じるときがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		配置数を満たしています。 管理者、児童発達支援管理責任者のほかに保育士、児童指導員、が配置されています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		玄関に来客用スロープ、手すりがあります。 2階への階段に手すりがあります。 要所要所に絵や文字による掲示を行い、こどもたちに伝わりやすい配慮をしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎朝夕の事業所内の掃除に加え1時間に一度の換気を実施し、清潔で心地よく過ごすことのできる環境設定に努めています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		静養室や会議室等は必要に応じて使用することが出来ます。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	5		毎日朝夕のミーティングに加え、必要に応じて会議や研修を開催しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者面談の内容等については職員ミーティングで共有し、必要に応じて業務改善をおこなっています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日朝夕のミーティングに加え、年に2回の面談を実施し、必要に応じて業務改善を行っています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	現在検討中です。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		所内学習会に加え、外部研修に参加する機会も多く設けています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		令和7年3月より公表されています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		利用開始時に保護者によるアセスメントを行うとともに定期的に事業所でもアセスメントを行い支援内容を設定しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		個別支援会議を開催し、参加職員の意見がしっかりと反映されるように工夫しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別支援会議にて共有しています。計画に沿った支援を行えるように支援内容を決定しています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		相談支援事業所からの基本情報、保護者からの情報などを用いています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		保護者との面談内容や送迎時のやり取り、本人の実際の利用状況等を考慮しながらガイドラインに沿って計画を立案しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		児童発達支援管理責任者だけでなく様々な視点から活動プログラムなどを立案しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事や、外出レク、祝日のレクなどプログラムが固定化しないよう行っています。 音楽療法や食育も実施しています。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		それぞれの児童に合わせて、集団で行う内容や個別で行う内容を組み合わせています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎朝のミーティングにて支援内容の共有や児童の情緒的配慮について話し合い統一された支援を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		その日の夕方のミーティングにて共有し、翌朝にもより詳細なミーティングを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		毎日の記録として療育記録の作成を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリング、個別支援会議を行っており、必要に応じて計画の見直しを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を組み合わせながら支援を行っています。	地域交流の機会の提供が少ないと感じるため今後の課題である。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		利用児童本人が自分でしたい活動を選択しながら活動することが出来るようにプログラムの順番を自分で決めるなどの配慮をしています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者と管理者が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		サービス担当者会議等に参加し、関係機関との連携を図っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		保護者との情報共有だけでなく必要に応じて学校との情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		相談支援専門員を通して行う場合が多いが、必要に応じて電話等で情報共有を行っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		他事業所への移行などの際には情報提供を行っています。	今年度は対象児童はいませんが、必要に応じて提供していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5			今後検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			他事業所や児童会との交流を検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			参加を検討していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		個人の連絡帳に活動内容や様子を記入している他に送迎時や保護者面談にて共通理解に努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		面談時や送迎時等に助言を行うとともに、ご家庭向けチェックリストを実施してニーズの把握を行っています。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		必要に応じて児童と面談を行い、面談内容を保護者に伝えながら支援内容に反映させています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		モニタリング時や利用契約時に説明しています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		送迎時や面談時、必要に応じて電話等で行っています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		参観行事や参観WEEKを開催し交流の場を設けています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情・要望の受付担当者、解決責任者等について契約時に重要事項説明書にて説明するとともに、苦情等があった際には迅速に対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ホームページ、ブログ、インスタグラムにてお伝えしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		十分配慮しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		必要に応じて絵カード、イラスト等を活用するなどの配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		地域のごみ拾い活動を実施しています。住民の招待については今後検討が必要です。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		BCP、安全計画を策定し訓練を実施しています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		定期的に避難訓練を行い、委員会にて共有しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		相談支援事業所からの基本情報や保護者のアセスメントシート記入、面談にて共有しています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		契約時の面談シートやフェイスシートを活用しながら対応を行っています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		委員会にて安全計画を共有し、事業所で避難訓練を行っています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		連絡帳や実施記録を作成し、避難訓練内容を報告・共有しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告書を作成し、事業所及びリスクマネジメント委員会にて共有・検討しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会の研修、事業所内の研修を行うとともに、虐待防止チェックリスト表の記入を行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		契約時に身体拘束・行動の制止について説明しています。必要に応じて個別支援計画に記載しています。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス きらら個ユース		
○保護者評価実施期間	8年 2月 15日		8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	8年 2月 20日		8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	7年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童が自己決定ができるような関わりや支援を行うよう心掛けている。	・児童の興味関心に注目し、活動に参加できたことを認めることで、自己肯定感のアップにつながる支援をしている。ポジティブ行動支援の実施により、一人一人が自己決定出来るような関わりを大切にしている。 ・児童が企画の立案や実施を行っていきけるようにサポートしている。	・同年代の児童での関わりはもちろん、年齢の離れた児童同士での関わりを増やし、年上の児童から学ぶことや年下の児童に教えていくことで自分の強みを増やせるよう支援していく。
2	・将来に向け自立に必要な活動を取り入れている。	・生活スキルのアップの必要性を知るには、まず日常行う事が当たり前になることが大切だと感じるため、個別課題で取り入れるなど「嫌だ」「めんどくさい」と言う気持ちがなくなるようにしている。終わった後の感謝の気持ちは必ず伝えるようにしている。	・将来的に宿泊体験をするなどの経験もしてもらいたい。
3	・活動の固定化がなく、尚且つ児童だけの会議を行ってもらうなど、様々な視点からの取り組みを大切にしている。	・話し合いのグループ分けの際、中学年、高学年、中高生など年齢でチーム分けをしたり、さんまざまな年齢を混ぜる等活動の内容によって変更している。グループでの役割分担を話し合うなど児童同士がお互いの事を考えて役割分担できるような取り組みを行っている。 ・自己理解、他者理解ができるような集団活動も行っている。	・児童からの意見も取り入れながら、活動の幅を広げていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域との交流の機会が少ないこと。	・地域との交流を望まない方もいる。	・さまざまな意見を取り入れながら実施に向けて検討していく。
2	・保護者の方の交流の場が少ないこと。	・祝日で参観行事を行っていたが、平日の方が参加しやすい方もいると感じたので、平日の開催も必要である。 ・交流を望まない方もいる。	・参観行事は行っているが、参観行事に参加できない方が参加できるように参観行事の回数や時期を検討する。 ・研修など取り入れていけるよう今後検討していく。
3	・保護者の方に向けての研修の機会が少ないこと。	・参観行事以外の学びの場が少ないと感じる。	・保護者の方からの悩みや相談事に関わりのある資料の配布も検討していく。 ・保護者向け研修を行っていきけるように検討中である。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービス きらら佃コース						公表日	8年3月 31日		
							利用児童数	31名	回収数	30名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	1						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	29			1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29			1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30				疲れた時は休ませてもらったり、心地よく過ごせている。			
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	30				本人の事を理解し、指導していただいている。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	30							
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29	1			モニタリングで毎回話し合いをしているので、満足しています。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30							
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30							
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	30				多くのプログラムをいいバランスでやってくれている。本人も楽しんだり学んだりしている。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	19	1	4	6				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	30							
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29			1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	2		4	研修はないが、情報共有はあるのでいいと思う。	研修の機会も設けていけるようにしていきたいと思います。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	29	1			送迎時に様子を伝えてくれる方とそうではない方がいるので、出来れば色々とお話してほしいです。	送迎時に様子を伝えていくなど、保護者の方との共有をしっかりと行っていきます。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	1			とても細かく本人について知ることが出来る。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	1			とても暖かく支援を受けている。			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	25			5	参観日は雪が降らない時期にやってほしい。	今後は開催日時を話し合い、年1回以上出来るように検討していきたいです。		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	1		1				
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30				ブログなど楽しく拝見しています。			

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	30					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	30					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	27	2		1	親子共に満足しています。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	25	3	1	1	親子共に満足しています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	30				親子共に満足しています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス きらら佃ユース		公表日		8年 3月 31日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		宿題や余暇活動の場を分けるなど活動の内容によって配慮している
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用定員に対して職員の配置は適切に行われている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		基本バリアフリーの構造になっている。宿題、おやつスペースと余暇活動のスペースは分けている。	和室と縁側の境目は少し段差になっている。必要に応じて検討していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日、利用者様を迎える準備として朝は玄関掃除など行い、降所後も掃除、消毒、整理整頓を行っている。生活課題として簡単な掃除の活動も取り入れ、清潔な空間にすることに努めている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		不穏児童のクールダウンや体調がすぐれない児童に対して別室を利用することや集中して宿題をしたい児童も別室を利用することが出来る。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		毎朝のミーティングで子どもの様子や改善が必要なこと等を共有し、業務の改善に努めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		改善策を検討し、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的上司との面談する機会があり、その際に意見や要望を伝え、業務改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		保護者評価表を実施している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		定期的に研修や学習会がある為、資質向上の為の機械は十分ある。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		個人ファイルにて就業中はいつでも閲覧可能である。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		普段の支援の中で聞かれた大事な会話も職員間で共有し、必要に応じて児童との面談を行い、ニーズや課題を分析している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		交代で集団活動や個別課題などの活動計画を立案し、個々の課題を見出し会議にて共通理解を深めている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		ミーティングや会議で共有を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		インフォーマルなアセスメントとして、送迎時の車内などで、学校での様子や興味関心事、不安な事などを聞いている。本人の強みを見出し、活かせるような活動を行っている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		本陣支援における5領域について、学習会をおこない、理解を深め、個々の課題に応じた支援を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		行事の立案の際は職員間で話し合い、子ども達の状況や特性を踏まえて計画している。児童にアンケートを行い、児童と一緒に考えるなどの活動も行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		児童が意欲をもって取り組めるように、個別課題や集団活動を設定し固定化しないよう新たな活動を計画し、取り入れている。生活課題、粗大運動、微細運動、ビジョントレーニング、お手伝い活動など様々な活動を意識し取り入れている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		児童の特性や学年に応じて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝のミーティングでの支援内容、集団活動の内容、配慮すべき点など話し合い、連携をとっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		終礼にてその日の振り返り、気になった点などを共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		活動の様子を記録している。個人の療育記録の作成も行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的に個別支援会議やモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		音楽療法や食育を今年度より取り組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自分発信で活動につながるごとの経験が出来る場を大切にすることで、他児童も発信、自己決定できるように取り組みを行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達管理責任者と管理者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要に応じて各所との連携を取りながら統一した支援を行えるようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校とのやり取りを行ったり、保護者からの連絡や下校時間変更の手紙をいただいて情報の共有に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			今年度、対象児童がいない 今後、情報共有していきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			対象児童がいないので、今後対象児童がいた際には情報提供をしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6			今後検討が必要である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6			今後交流の検討は必要である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳や送迎時、お迎え時などを利用し保護者へ様子を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		家庭向けチェックリストを取り入れ、ご家庭での困りごとに関する相談を受けている。	必要に応じて個別の対応を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		面談やモニタリングの際、保護者の意向を確認したり児童の思いを確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		面談の際、書類にて説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		年2回ほどの参観行事を行い交流の場となるようにしている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情、相談の担当者、解決責任者について契約時に重要事項説明書にて説明をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ブログ、インスタグラムの更新を定期的に行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		十分に留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		十分に留意している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6		今後検討していく予定。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		契約時に説明している。 委員会の設置を志訓練も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に避難訓練を行い、委員会にて共有している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時に確認をしたり、アセスメントシートや基本情報で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に確認をしたり、アセスメントシートや基本情報で共有している。 アレルギーに関して詳しい情報を確認し、必要に応じて、診断書等をいただくこともある。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、避難訓練を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		避難訓練内容を委員会に報告、共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止に向け事業所内で振り返りや対策について話し合いを行っている。リスクマネジメント委員会にて共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会の設置、事業所内で研修を行っている。虐待防止チェックリストの記入を行い防止に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		契約時に身体拘束や行動の制止について説明をしている。身体拘束適正化委員会を設置し身体拘束を行わない支援ができるよう研修や学習会を行っている。		

事業所名

放課後等デイサービス きらら佃キッズ(放デイ)

支援プログラム

作成日

8年

3月

19日

法人(事業所)理念		一: 私達は、ご利用者を第一に終生、安心に明るく暮らしていただける住まいを提供し幸せを追求します。 一: 私達は、働くことを通じて謙虚に学びあい、育ち合い、生きがいと誇りを持てる職場作りを目指します。 一: 私達は、医療・福祉・家族の皆様と関わりを持ち、介護・福祉を通じて地域社会に貢献します。					
支援方針		・ 児童一人ひとりの課題を把握し、家庭や学校などの関係機関と連携しながら統一された支援の提供を目指します。 ・ 事業所のアセスメント力を強化し、一つ一つの活動に対して根拠をもって支援に取り組みます。 ・ 児童が主体的に取り組むことが出来る活動内容を実行し、成功体験を積みながら自己肯定感の向上を目指します。					
営業時間		9時	00分	18時	00分	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	・ 毎日の検温、手指消毒の実施 ・ 基本的な生活習慣の確立(低学年: 食事、排泄、衣服の着脱、挨拶 高学年: 挨拶、時間を守る、整理整頓、ルールを守る、整容面を整えるなど) ・ 清掃、お手伝い活動による生活スキルの向上(掃除機掛け、ゴミの分別、テーブル拭き、食器洗い、靴箱の清掃など) ・ 学年に応じた保健指導(感染対策、清潔面、身だしなみ) ・ 調理レク(苦手な食べ物や初めての食べ物への挑戦、調理器具の扱い、調理)					
	運動・感覚	・ 感覚統合を促す運動遊び(第1段階～第5段階までのプロセスを理解: 基礎感覚、姿勢・眼球運動のコントロール、ボディイメージの形成、手指の機能分化、学習や運動の達成) 粗大運動: トランポリン、リズム運動、風船運びゲーム、飛び石、マット運動、トンネル、風船バレー、ホッピング、フラフープ等 微細運動: 箸、ボタン留め、お弁当結び、ハサミなど道具の操作、リボン結び、キャップの捻る、ちぎる、抑えるの動作 工作(両面テープの貼る、剥がす動作) ペーパークラフト等 ・ 集団レクリエーション(巨大神経衰弱、リズム体操、風船バレー) ・ パソコン活動 ・ 体育館レク(運動レク) ・ ビジョントレーニング					
	認知・行動	・ 活動スケジュールの把握と実行(時間を意識した活動) ・ 学習支援(時計、お金、宿題、テスト勉強、予算に応じた買い物) ・ 行動の障害への予防及び対応等(活動において予想されるリスクの話し合い、クールダウンの方法等を決めて実践する) ・ 季節への興味、関心(外出: お花見、フラッセ見学、雪遊び)(製作: 季節の装飾作り) ・ 集団レクリエーション(個人戦、チーム戦、勝ち負けのこだわりに対する支援) ・ 粘土製作(油粘土、紙粘土) ・ おやつ作り(混ぜる、捏ねる等)					
	言語 コミュニケーション	・ 視覚的支援(手順書、イラスト、文字によるルールの掲示) ・ 特性に応じたコミュニケーション(会話と筆談) ・ 朝の会、帰りの会の司会進行(台本を作成) ・ SST課題学習(イラストの表情や場面に適切な言葉を考えるなど) ・ 集団レクリエーション(絵しりとり、ジェスチャーゲーム、伝言ゲームなど) ・ 児童同士で自由遊びの際の事前のルール確認 ・ 余暇時間の充実(個々遊び、小集団遊び、集団遊びの立案、実施)					
	人間関係 社会性	・ 発達課題の獲得を理解した支援(言葉での交渉のやり取り、代弁する、仲介する、対等な2人遊び、3人遊びでの仲間外しなど) ・ アタッチメントの形成(1対1での応答的対応にて信頼関係を築く) ・ 集団レクリエーションや係り活動での異年齢交流(ルール、役割や協力の経験…企画会議、司会係、準備係) ・ 地域交流(ゴミ拾い活動、職場見学、外食体験、買いもの)					
家族支援		・ 日々の活動の様子を連絡帳や送迎時、電話、面談にて伝えていく。また、子ども自身も含めたご家族の不安感や困り感、分からないこと等に耳を傾けながら解決に向けていく。 ・ 定期的に参観行事を開催し、日頃の様子を観望していただく。			移行支援		進級、進学等を見据え本人が困り感なく過ごしていく事が出来るよう関係機関と連携していく。関係者との担当者会議に参加しながら、課題の確認、改善等の検討をしていく。
地域支援・地域連携		・ 地域イベントへの参加。地域交流として、近隣のごみ拾い活動等を通して社会性を育てる支援を行う。 ・ 相談支援事業所や必要に応じて学校との連携を図る。			職員の質の向上		・ 児童の課題に向けた学習会を実施、共有。PDCAサイクルの活用。課題提供の充実。 ・ 交代しながら所内学習会を実施・個別支援会議の実施・個別検討会議の実施 ・ 各委員会の参加、委員会に関する内容の報告会議
主な行事等		・ 社会見学、社会体験 ・ 年に3回以上の避難・防災訓練(地震・火災・風水害・不審者訓練) ・ 祝日レク、外出行事 ・ 買い物体験 ・ 季節や行事の製作(勤労感謝の日製作、ハロウィンレク、年賀状製作、季節ごとに療育室の装飾等) ・ 調理レク、おやつレク ・ 参観行事(参観WEEK、参観行事等) ・ 季節の行事(花見、水遊び、スポーツレク、クリスマス、雪遊び、納涼祭等)					

事業所名

放課後等デイサービス きららゆコース

支援プログラム

作成日

8年

3月

19日

法人（事業所）理念		<ul style="list-style-type: none"> 一：私達は、ご利用者様を第一に終生、安心に明るく暮らしていただける住まいを提供し幸せを追求します。 一：私達は、働くことを通じて謙虚に学びあい、育ち合い、生きがいと誇りを持てる職場作りを目指します。 一：私達は、医療・福祉・家族の皆様と関わりを持ち、介護・福祉を通じて地域社会に貢献します。 						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦してみようとする気持ちを大切に、成功体験を積み重ねながら自己肯定感を高めていく。 ・就労と自立に向けて必要なスキルを身につけていけるような取り組みを行い「生きる力」を育む。 ・ポジティブ行動支援を念頭に置き、子ども達に寄り添った支援を行う。 						
営業時間		9時	30分	18時	30分	送迎実施の有無	○なし	
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の検温、手指消毒 ・基本的な生活習慣の確立（挨拶、きれいな言葉使い、食事のマナー、制服や衣服の畳み方、スケジュールの組み立て、整理整頓、清潔についてなど） ・個別課題、集団活動での生活スキルの向上（掃除機掛け、モップ掛け、玄関掃除、ゴミの分別、テーブル拭き、食器洗い、洗濯干しとたたみ方、リサイクル活動、など） ・保健指導（生理、清潔面、身だしなみ、プライベートゾーンなど） ・調理活動（菜園活動、買い物、調理器具の扱い、調理、おやつ作りなど） 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合を促す運動遊び（第1段階～第5段階までのプロセスを理解：基礎感覚、姿勢・眼球運動のコントロール、ボディイメージの形成、手指の機能分化、学習や運動の達成） 粗大運動：ドッチボール、体幹トレーニング、ストレッチ、ダンス、縄跳び、フラフープ 微細運動：箸、ハサミなど道具の操作、折り紙、アイロンビーズ、プチブロック、スライム、制作活動 ・集団活動（音楽と運動遊び、リズム体操、目隠し感覚遊び） ・パソコン活動 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・製作活動（絵の具・糊使用…見本を見て同じように作る） ・季節や行事への興味、関心（外出：お花見、海や水遊び、りんご狩り、雪遊びなど 室外：花壇作り、落ち葉掃除など） ・集団遊び（ボードゲーム、かくれんぼ、宝探し、かるた、クイズ、カードゲーム） ・感覚遊び（スライム、水） ・プチブロック遊び ・調理、おやつ作り（混ぜる、捏ねる、お皿やスプーンの数、計量） 						
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的支援（ビジョントレーニング） ・特性に応じたコミュニケーション（会話と用紙記入） ・レクリエーションの司会進行（事前に台本を作成） ・SST課題学習（場面を演じそこで感じたことの発表、イラストの表情や場面に合わせた適切な言葉を考えるなど） ・集団レクリエーション（トークすごろく、好きなものマップ、スリーヒントクイズ、言葉探しゲーム、絵しりとり、ジェスチャーゲーム、他己紹介など） ・余暇時間の充実（個々遊び、小集団遊び、集団遊びの立案、実施） 						
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・発達課題の獲得を理解した支援（言葉での交渉のやり取り、代弁する、仲介する、対等な2人遊び、3人遊びでの仲間外しなど） ・アタッチメントの形成（1対1での応答的対応にて信頼関係を築く） ・集団活動や余暇活動での異年齢交流（ルール、役割や協力の経験…企画会議、司会係、準備係） ・地域交流（ゴミ拾い活動、職場見学、外食体験、買いもの） ・イレギュラーな場所（お店など）基本的な挨拶や困り感が生じたときの援助の求め方など、必要に応じた内容の場面想定をロールプレイで実施 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・きららゆコースでの様子（個別課題や集団活動の様子、友だちとの関わりなど）を連絡帳や送迎時、電話、面談にて伝えていく。また、子ども自身も含めたご家族の不安感や困り感、分からないこと等に耳を傾けながら解決に向けていく。 ・定期的に参観行事を開催し、日頃の様子を観覧していただく。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・進学に向けた不安や悩み事に対する相談を送迎時や電話等で行っていく。 ・ライフステージの切り替えを見据えた、将来的な移行に向けた環境づくりに関係機関と連携していく。また、担当者会議に参加しながら、課題の確認、改善等の検討をしていく。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加。地域交流として、近隣のごみ拾いなどの参加を通して社会性を育てる支援を行う。 ・相談支援事業所や必要に応じて学校との連携を図る。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの課題に向けた学習会を実施。共有。PDCAサイクルの活用。 ・個別課題や集団活動の充実の為の学習会を実施。共有。 ・交代しながら所内学習会を実施。（題材は各自で考える） ・個別支援会議の実施 ・個別検討会議の実施 ・各委員会の参加、委員会に関する内容の報告会議 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学、社会体験 ・年に3回以上の避難訓練（地震・火災・風水害・不審者訓練） ・買い物体験 ・季節や行事の製作（ハロウィン衣装、クリスマス制作、年賀状製作、季節ごとに療育室の装飾等） ・調理、おやつ作り ・毎日の味噌汁作り（腸活） ・参観行事 ・季節の行事（花見、夏祭り、水遊び、スポーツレク、クリスマス、雪遊び等） ・他きらら事業所との交流会（夏祭り、運動会、カフェなど） 						